

ボランティアも駆け付け

閉校の浦島小を大掃除

今年3月に閉校した気仙沼市の旧浦島小学校で16日、地元住民や関東、近畿地方などから駆け付けたボランティアが、校舎内外を大掃除した。

学校は閉校したが、

校舎を地域の財産として大切にしているところと浦島地区振興会（小野寺光一会長）が初めて行った。旧浦島小学区の住民をはじめ、NPO法人日本国際ボランティアセンターを通じて駆け付けた東京都や大阪府の会社員など約60人が清掃作業に当たった。

この日は、教室、廊下、トイレなどを手分けして清掃。ほうきなどでほこりやクモの巣を取り除き、雑巾やモップなどでていねいに水拭きした。ガラスを一枚一枚拭いたほか、外壁も高圧洗浄機で汚れを落とした。終了後は、地元の主婦たちが作ったメカカレーで会食し、労をねぎらった。

旧浦島小校舎をていねいに清掃

閉校から半年が過ぎた旧浦島小。一部教室は月数回、地元自治会の会議や防災集団移転に関する勉強会などに活用しているが、出入りがないところはほこりがたまり、汚れが目立ちはじめていた。

小野寺会長は「浦島地区は将来的に大島架橋アクセス道と三陸道が交差する要衝になる。校舎の活用方法はまだ決まっていないが、何らかの形で地域活性に使えるよう、今後も定期的な手入れを続けて大事にしていきたい」と話していた。

